

第 55 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	高ゼミ	チーム名	ヤンスー
タイトル	“隠れた稼ぎ頭”AWS からみた Amazon		
テーマ群	d) 国際経済 e) 産業・企業		
メンバー	山中天翔, 垂井幸太郎, 板谷優佑, 坂井茉佑香, 竹ノ内彩夏		
研究計画内容	【研究背景】 Amazon と聞くと物流やネットショッピングの印象が強いが、実際にはクラウドサービス「AWS (Amazon Web Services)」が同社の利益を大きく支えている。コロナ禍におけるネットワークシステム利用者の増加により、AWS の普及率は急速に拡大した。近年、デジタル化の進展に伴い、多くの企業が従来の製造・物流中心の事業モデルから、クラウドやデータ基盤を活用した高収益型ビジネスモデルへと転換している。この流れの中で、Amazon は EC 事業だけでなく、AWS 事業を成長エンジンとすることで高収益構造を実現している。 また、GAFA をはじめとする巨大 IT 企業間の競争においては、プラットフォーム型事業やクラウド事業などによる収益源の多様化と中核事業の強化が、持続的成長の鍵となっている。 【研究内容】 Amazon の売上や利益に、AWS 含めたクラウドサービス分野がどのように貢献しているかについて紐解いていく。AWS は売上全体に占める比率は相対的に小さいが、営業利益の大半を担っており、同社の最重要事業部門として位置づけられている。高い利益率の背景には、BtoB 向けのインフラサービスという高付加価値かつ継続性の高いビジネスモデルがある。これらの分析を通じて、デジタル時代における企業の成長戦略には、リスク分散経営と、収益性の高い中核事業の構築が不可欠であるという理解を深めた。 【期待される効果】 AWS が提供する多岐にわたるサービスと、それを支えるビジネスモデルの関係性を明らかにすることで、その事業構造を体系的に理解することができる。特に、AWS のように高収益性と継続性を兼ね備えた中核事業の存在が、持続的成長とリスク分散に寄与することを明らかにする点に意義がある。また、この知見は Amazon に限らず、他の IT 企業やデジタル基盤を活用しようとする企業の経営戦略においても応用可能である。さらに、企業が収益構造を強化する際には、在庫や資本負担を軽減しつつ高付加価値事業を育成する必要があることを示し、今後の産業全体におけるビジネスモデル転換の方向性を考察する基盤となる。 【参考文献】 Amazon.com,Inc.-IR 「Amazon.com Announces Fourth Quarter Results」 https://ir.aboutamazon.com/news-release/news-release-details/2024/Amazon.com-Announces-Fourth-Quarter-Results/default.aspxa		

